

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

JRの駅周辺や八幡橋付近、浜に主要な商業施設があり、高齢者等にとって買い物に行きにくい地域もあります。新しい集合住宅が建っている地域があり、全体の高齢化率が抑えられているところもありますが古くからある集合住宅や地区によっては高齢化が進んでいる地域もあります。住民の結びつきが強く、連合町内会を中心に組織化されており、ボランティア活動や地域福祉保健計画への取組みにも熱心な地域です。地域がこれからも元気に活動できるように広く住民が健康作りを取組むことまた、その場が用意されていること。また、既存のボランティア活動や地域サロン、健康作りの取組みが継続されるよう新たな担い手が育成されることが必要と考えています。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
■	<input type="checkbox"/>	見守り活動をする地域住民団体に見守りポイントのシートを作成し配布する予定にしています。このシートをもとに見守り活動の仕組みを話し合い実行していく協議体を作っていきます。
■	<input type="checkbox"/>	事業所内の各部署で把握している地域のネットワークや個別の特技、資源を、可視化できる共有シートを作成する
■	<input type="checkbox"/>	認知症サポーター養成講座を受講された方に活動場所を紹介するとともに地域福祉と一緒に取り組みます。
■	<input type="checkbox"/>	高齢者虐待防止のために初期段階で相談ができるためのケアマネジャー向け講座を開催します。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

今年度途中から主任ケアマネが不在となったが、多様な相談が寄せられるようになり多忙を極めた。
 集合住宅での見守り支援は生活支援体制整備事業と地域包括支援センターが協働して取組んだが、地域住民の組織化が困難であり、次年度も関りを継続し他の集合住宅でも同様の取組みができるように手法を構築することが必要と考えている。
 各地区で子ども食堂が展開されているが、根岸地区では直接的な子どもの支援ができることと、そこに地域住民がかかわり、生きがいになることを目的としてねぎ子どもとまり木会を発足させた。
 いろいろな子どもが集まれる場所になるとともに担い手による自主活動に移行するためのプロセスも順調に進められている。

区からのコメント

集合住宅での見守り支援については、現在、支援ができていない地域にも、今後も積極的な活動を展開いただくとともに、現在関りができている団体に対しても継続的な関りを進めていただければと考えます。地域住民の組織化は困難であるとのことですが、今後とも粘り強く働きかけを行っていただくことを期待します。
 人員不足の中、滞りなく相談対応し、適宜、区役所や関係機関との連携を密に行っていただきました。相談内容が多岐に渡り、複雑化する中、情報を整理して共有することで一貫した対応ができるようにしたり、地域に出向いて相談に乗るなど丁寧に対応して頂いたと思います。対象者を問わずひろく相談を受け、特に今年度はこどもの支援について地域住民の声を聞いてニーズ把握し、ねぎ子どもとまり木会の立ち上げを支援するなど、地域住民と一体となって地域づくりを行いました。子どもたちへの居場所づくりや新たな担い手の発掘などの成果があり、皆さんの努力が一つの形になったように感じました。今後もより一層、地域住民との関係づくりに努めていただきたいと思います。
 来年度は地域福祉保健計画の策定があります。地区別計画の策定を含め関係機関同士の連携・協力が必要になります。地域全体での福祉の推進の検討にむけて、さらなる連携・協力をよろしく願います。